

ほっかいっぱいみさきっ子



御前崎市立御前崎小学校 学校だより 令和2年度 7月号

ありがとう。どうか、元気に生きて、大きくなって。



10か月間、御前崎小で育てたアカウミガメを、7月9日（木）に放流しました。出発間際に雨がふり始め、4～6年生はカップを着て出かけました。

代表の6年生が、子ガメをやさしく砂浜に降ろすと、子ガメたちはゆっくりと進み始めました。

御前崎小の水槽しか知らない子ガメたちにとって、初めての地面・波・大海原です。懸命にヒレを動かし、水面をめざす子ガメたちに、見送る子どもたちから思わず声援がかかりました。

私は、※16番カメの放流を見せてもらいました。ある子の「16番だからイチローだ」というアイデアで、私も「イチロー」と呼ばせてもらいました。やや体の小さいイチローは、砂の上で、たびたび止まってしまい、なかなか前に進むことができませんでした。大きな波に乗り、やっと海に向かったと思いきや、打ち寄せる波に押し戻される。その繰り返しでした。何度目かに、ようやく沖に向かえたときは、ほっとしましたが寂しくもありました。



※16番カメ 御前崎小のカメには個体識別番号をつけています。



10か月で大きくたくましく成長した子ガメたちです。赤ちゃんカメに比べたら、敵からも身を守れるようになりました。きっと自分でエサも見つけれられるでしょう。

どうか、無事に大きくなってほしい。そして、この御前崎の海に帰ってきてほしい。強く願わずにはいられませんでした。

アカウミガメが育んでくれるものは

- ・アカウミガメがぶじメキシコ沖まで行けますように。
- ・今コロナでたいへんだけどおさまって、みんながえがおで幸せに過ごせますように。
- ・ユーチューバーになりたいです。
- ・ゲームがうまくなりたいです。
- ・家の人とずっといられますように。
- ・家族と幸せになりたい。
- ・3年1組のみんなが、けがなくいられますように。

などなど

これは、各クラスに飾られていた七夕短冊の一部です。そのほかの、どの短冊も、本音のかわいさ、人を思う優しさ、温かさがあふれていました。

子ガメたちが何度戻されても懸命に海へ向かう姿、声援を送り、泳いでいった先の海を見つめる子どもたち、放流会に流れる空気は特別なものでした。

長く続いてきたこの伝統行事も、御前崎小の根っことして、子どもたちの育ちを支えていることを実感しました。御前崎小に流れる温かさの一部は、間違いなく、伝統のアカウミガメ飼育が育んでくれているものです。

ご心配だったと思いますが、当日カップを用意し背中を押してくださった保護者のみなさま、ライフジャケット準備等安全確保をお手伝いいただいた教育委員会とアースコミュニケーションのみなさま、保護監視委員のみなさまに心より感謝申し上げます。

